

—その5

体質改善を

現在の各量は、そのモットーで「パスとして横たわっており」「マンネリからの脱皮」は、当面望み薄である。もハンドボールクラブを先頭と

して、体育部では野球部、バドミントン部、水泳部、陸上競技部、サッカー部、又文化部ではオーケストラ部などの活躍に目覚ましいものがあり、オールラウンドミツシヨンスクール（ミ）を目標にして、日々に進歩の足跡を残している。こんな我校の最大のガンは、現在国民の持つ「政治的無関心」と全く同様の「生徒会に対する無関心」である。これはやはり生徒会の活動の面へ、大きな穴を開け、少しの欠陥を徹底的に突き、トコトンまで喰いついて行く者が何人かいる。そういう生徒を周回する者は称して「生徒会屋」或いは「総会屋」という。これは「政治屋」からの転称であらうが、いすれにしてもこの様な名前をつける事自体が、根本的に間違っている。生徒総会は生徒会員の公の発言の場であるからだ。そんな呼称をつける者自身は決まって全く発

「じゃない」と多分生徒会本部はこう思つたであらう。事実、私もそう思つていた。昼休み、全員は当然外へ出る、その場で討論會を開催すれば、まさかソッポを向くような奴もあるまいと……。所が現実はずうであつた。第一校門討論會は某日の金曜日、暑い最中に開かれた。炎天下のもとゆえ中庭に出ている者は當然の結果として日陰を求めて両側に散つている。その真ん中に、フランス革命

Rに対する動きかけが必要ではないだろうか。勿論本諸役員が各々のH・Rを廻る前に、評議委員会を中心とした日・Rでの盛り上がりの方が先決問題である。その点に関して、私が提起したいのが、表題にもある「H・Rの体質改善」である。

前記した日・Rとは、集合体としてのH・Rという意味では非頭なく、いわゆるS・H・R(シエートホームルー)とL・H・R

各々のH・Rの独自の行方としての「芯」さえ一本通っていれば……。しかし又半面、この放任的な——と云って悪ければ自由な——H・Rの現状がその低調を招いているのは事実である。私はこそ生徒会がこのH・R自体のあり方を自覚させ考えさせる絶好の時であると思うのだが。

生徒の中には日・Rとは宿題を他人から写させて貰う場であると考えている者も数人いる。この様

決断させるような雰囲気、全校に漂わせてこそ、生徒会をH・Rの間に浸透させるのも可能になり、又それを実現してこそ無関心のガンを征服したと言えるのではない。兎に角、今のままの状態では「マンネリ打破」どころではない、益々生徒会員と離離していくだろう。

またこの案が実現すれば、H・R内の連帯意識が高まっておりますも見逃せない。今まH・Rの決てきると思つ。

評議委員ルース加藤とその役割については、以前から論じられて来たので、差し返しと思われる向きがあるかも知れないが、一応ご了承を願う。

さて評議委員はクラスの者から選ばれ、又は自分から立候補してなったものであるから、生徒会と生徒会員とを密接につなぐ役目を自分から遂行するのは当然の義務とも言える。しかしその筆の委員が、「評議委員会なんて、面白く

める気なれないものか、現状ではただ評議委員会の傍聴者である。評議委員の心機一転を望む。また監査局も個人の出席を調査するのふざけたらないでほしい。

この私案はかなり実現困難な事は自認しているのだが、是非ともつかみ取ってほしい事は「今生徒会の改善を考える上にも、H・Rの体質改善が今日明日にも望まれている」ということだ。「そんな案よりはもっとこころししたらどう

新聞局長

過日、高校生生徒總會で、沼尾新聞の現状に關して「プリントを近日中に配布する」という約束をしたのですが、中学生にも是非知つて貰わなければならない事柄が多々ありますので、敢えてこのような形式で発表します。ご了承の程を……。

先ず会計報告から。表に掲げた通り、40・42年度の決算を明示しました。実際には、HⅢ・HⅣは多額の赤字は解消されて、四万全

ご存知の通り、40年度の一年前即ち39年度には新聞費を25円に大幅値上げしています。その値上げの理由は、勿論かなりの赤字続きが主因なのです。この値上げ実施の際に、生徒總會で取沙汰されてケンケンゴウゴウたる非難を浴び、遂に顧問の先生がその弁護に登壇するという非常事態が発生したのも肯げます。その時はうまく

つたにせよ、何故現在の多額の累積黒字を残すに至ったのでしょうか？その答というのはいさうです。40年度から41年度に生徒数がかなり増加しました。（実際の数字を記すと1069→1238へと約60人程度の違いがあります）これは当時の高3の卒業生が、その中への新入生に比べて、著しく人数が少なかったからです。その結果必然的に収入がアップしました。所以、大阪のプランケット版で355万円の相場です）それ以後は凸版が少なくなったゆえか、以前に比較して、一回の印刷費増もが低下しました。また文化祭のクラブ展示会の発表にも手が回らず、更に決定的な事は、42年度の三学期に活動不能となった（後述）事で、全く積った黒字に利息を付けられて、状態となって、現在に尾を引いています。

旬発行と大きくずれてしまいました。おっと、少し焦点がホケました。が、今年は各星新聞保存用縮刷版（二号より）をつくる所存です。で、43年度決算は最低18万程度で食い止める方針です。それ以後は10万円前後に安定させて、「長期安定」を目指すつもりです。従つてここ一、二年が累積黒字の解消の山場と見當を付けている訳なの

で下さい。決して生徒会の下に置かれた『生徒会機関紙』発行機関ではないのです。従つて『生徒会の下に置け』等という意見は無視せざるを得ません。ではうして『生徒会の下に……』という認識不足な意見が、思ったより拡がっているのでしょうか。

以前、我々の生徒手帳には、生徒会の活動の一環としての新聞発行という項目がありました。しか

い中で、正しい報道をする為には、やはり生徒会の下にあるべきではないでしょう。生徒会新聞が暴走した実例は、最近M高新聞が校医の名誉を毀損した等、数え上げれば限限がありません。勿論、新聞を四方八方全面的な「ゴニゴニ新聞」にする気は手頭ないのですが、

(四) 独自の会計が必要

独自の会計を執る新聞局にとつて、その活動の原動力となるべき

直に言つて、新聞局は地味な存在で、体育クラブの様に「記録を破る」という事もないし、報いは余りなくお叱りの方が多いのが現状です。また試験の前も7、8時頃迄におよんだ事もあり、発行寸前は「死にも狂い」になるのが喫緊です。そんな事から余り新入員も入りませんし、また現に局員自体もやる水を失なつて、退局してしまふというのが悲むべき

きどころかも知れませんが、一局
案に思えなかった事、洛星批判
の投書（京都新聞「窓」欄）事件
の取扱いかうまいかなかったり
……という悪条件が連懸る重なっ
てしまった事も、校策ではありま
すが原因の一つの様です。

又、一部の者から「新聞局を解
散せよ」とか「新聞局はうち近
い将来つぶれるだろう」と言つて
いたという事を、よく耳にします

◇すでに御存知の通り、一学期か
ら、校舎の周囲の金網が取りはず
されて、代りにコンクリート造り
のしっかりした物ができた。校長
先生のお話によると、この資金は
洛星OBの後援会からの寄付とな
って、大分な額らしい。



40 年度
〔支出〕
39年度繰越金費費費費
印写郵雜 刷真送計
〔収入〕 開取計
〔収支決算〕
48,348円 黒字

41 年度		
[支 出]		
印刷費	198,905	
印寫雜費	44,290	
	9,568	
計	252,763	
[収 入]		
40年度繰越金	48,348	
新雜聞取費	338,700	
	15,860	
計	402,908	
[収支決算]		
150,145円	黒字	
42 年度		
[支 出]		
印刷費	162,636	
郵送備費	1,000	
設備費	53,200	
雜費	3,435	
計	220,271	
[収 入]		
42年度繰越金	150,145	
新雜聞取費	337,475	
	3,000	
計	490,620	
[収支計算]		
270,349円	黒字	

トの終末をいふに、
刷費の値上りは避けられない事実
でもありますが、新聞費は一人
一月当たり 25円 という「基本姿
勢」は崩さないことは言うまでも
ありません。

さて次に、一番大きな問題とし
て論じてみたいのが「新聞局の存
在」という問題です。現在新聞局
に関しての誤解という面において
この点が最も極端なのは、ひいて
是新聞島の在り方自体が疑わしく

項が、全く消滅してしまつたので
す。その為、新聞局の所在は極
めて不明確になつてしまい、更に
半年のブランクから来る不信任が
現在の風潮を招いたとも、言えま
しょう。後者の点では、全く平身
先頭するのみです。

(1) 生徒会新聞は急走しやすい
新聞はあくまで、「報道人公器」

支は他のクラブとは全く問題にならないと言つてよい程で、非常に多額の金額を喰います。その内容が前掲の表を参照下されば結構ですが、更に細かく分けるときりがあります。従つて、地盤のしっかりした活動をする為には、会計からの確実な収支が、是非とも必要なのです。

大きく言つてこの二つが主なる理由であります。また他にもあります。それは、

● 資料に相対の裏づけがないので、資料に印刷関係に精通し身を横たえないかきり、喜びという物は味えません。その点に、この活動の難かきさという物があるようです。『曼の下力持ち』を自らかき出す者がいないのは金已に残稿さへ書けば良いのですから、そんな事で、現在は顧問の久保・吉井先生とともに、今後の建て直しと高層獲得について相談して

「メディアはマッソージである」というのは有名なマックル・ハンの言葉であります。私達もその線に沿って、今の新聞局を軌道に乗せる所存です。その為にも是非生徒会員の御協力をお願いします。

◇ ◇ ◇

4面を組むつもり。

(わ)

'43大学入試統計

		總 數	新 卒	旧 卒
京 大	大	68	36	32
同 志 社	大	29	4	25
慶 大	大	13	6	7
早 大	大	10	2	8
東 大	大	9	5	4
立 命 館	大	7	2	5
関 学 府	大	7	1	6
神 戸 大	大	5	4	1
滋 賀 大	大	4	1	3
京 府 医 大	大	4	3	1
阪 医 大	大	4	1	3
阪 大	大	3	2	1
北 京 大	大	3	1	2
京 工 織 大	大	3	0	3
信 州 大	大	3	2	1
京 府 大	大	3	0	3
神 戸 商 大	大	3	0	3
そ の 他		25	11	14
總 計		203	81	122

編集後記

「……これが俺の志の心
境です。現在、半年の
フランクを取り戻そう
と絶え努力中です。そ
で、版もタブロイド、内容
は講説と多少不本意な物に
したが、次号は特集で大阪
が主です。」

